

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定 **実施結果**)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月15日実施)	総合評価 (3月29日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①確かな学力の向上(基礎学力・技術・技能の定着、魅力ある教育課程編成の実現)</p> <p>②生涯にわたる自分づくり(キャリア教育・シチズンシップ教育の実践)</p> <p>③命や人権を守る(命の授業・人権教育・安全教育の実践)</p>	<p>○新教育課程の完成年度を見据えて、体系的な授業を定着させると共に、授業改善研修等により魅力ある授業づくりに取り組む。(①)</p> <p>○地域や外部機関と連携して社会で必要とされる人材育成に取り組む。(①②)</p> <p>○他者や自分の『いのち』を大切にすることを育む、かながわ「いのちの授業」にすべての教職員が取り組む。(③)</p>	<p>・PTや教科代表者会議を活用し新カリへのスムーズな移行を実施できる様計画を立て、遂行する。(①)</p> <p>・ICT利活用事業を推進し、魅力ある授業につなげる。(①)</p> <p>・企業、地域など外部の知見や本校に対するニーズを捉え、実社会で求められる人材育成を行う。(②)</p> <p>・他者を思いやる心を育む指導、いじめ防止に係る指導、人権教育、安全教育、保健指導などを、様々な教育活動の中で実践する。(③)</p>	<p>・完成年度につながる形で、新カリの授業内容を中心に実施できたか。(①)</p> <p>・ClassroomやTeamsを活用して授業や教材のICT化ができたか。業務の効率化が図れたか。(①)</p> <p>・外部機関との連携を通じて実社会で求められる人材を育成できたか。(②)</p> <p>・すべての教職員が他者や自分の『いのち』を大切にすることを育む指導を実践することができたか。(③)</p>	<p>○新教育課程完成に向けて施設見学等に対応できる時間割作成を行うと共に、工業科のカリキュラム調整を行い、より充実した工業教育に繋げた。(①)</p> <p>○ICT利活用を主軸に研究授業や研修を行い授業及び業務改善を行う事ができた。(①)</p> <p>○課題研究などの授業を活用した地域貢献や地域連携に幅広く取り組み、生徒の技術的実践的活用場を設けた。(①②)</p> <p>○各教科の様々な指導の場面において、人権教育、安全教育、保健指導等を実施し、他者及び自己のいのちを大切にすることの重要性を理解させる指導を行った。(②③)</p>	<p>○変化する社会情勢と教職員の状況に対応できる教育課程について、再度、検討を重ねる。(①)</p> <p>○ICT利活用推進校として、業務や教科指導の助けとなる情報機器の活用法について研鑽を重ねる。(①)</p> <p>○外部機関との連携について、企業、地域などが求める態度や能力の育成に向け、更に効果的な方法を模索する。(②)</p> <p>○各教科における人権教育、安全教育、保健指導は、各担当によりしっかりと行われているが、「いのちの授業」としての位置づけは、それぞれの指導において明確になっていない現状がある。</p>	<p>○生徒から教員に対する授業評価にもICTを活用して短いスパンで実施し積極的に授業改善を進めて欲しい。(①)</p> <p>○3年間の学びの中で、ものづくりコンテストを通じて努力する様になった等、本校ならではの成長を感じた事ができた。(①)</p> <p>○製作物の展示などで地域貢献を果たし、好ましい態度の育成ができて印象が強い。ぜひ継続して欲しい。(②)</p> <p>○いのちを大切にす指導と関連させ「多様性」への理解も意識させると良い。(③)</p>	<p>○社会のニーズに合わせながら検討を重ね、新しい科目の内容活かした効果的な教育課程を完成させる事ができた。(①)</p> <p>○職員・生徒のICT活用能力を向上させ、1人1台端末の活用方法について具体的な事例を蓄える事ができた。(①)</p> <p>○課題研究などの授業を活用した地域貢献や地域連携に幅広く取り組み、生徒の自信を深める事ができた。(①②)</p> <p>○各教科でいのちの授業を実践できたが、多様化する社会に対応した新たな視点での指導も求められる。(③)</p>	<p>○新教育課程の完成と同時に、次の社会的なニーズに対応できるカリキュラムの検討に入る必要がある。(①)</p> <p>○より実践的な工業教育を探求するため、AIの活用など新しいICT技術を取り入れた指導を積極的に取り入れる。(①)</p> <p>○地域連携を継続して行うと同時に、これまでとは異なるコミュニケーションの形を模索する。(①②)</p> <p>○いのちの大切さを育む指導において、社会の状況に合わせて多角的な視点からの内容を取り入れる。(③)</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①生徒指導・支援の充実(規範意識の定着、教育相談・部活動の活性化)</p> <p>②相互理解の促進(インクルーシブ教育の推進)</p>	<p>○社会マナーの定着と規範意識の高揚を目指すとともに、部活動をはじめ様々な生徒活動を通して生徒の自己肯定感を高める指導を推進する。(①)</p> <p>○課題を抱える生徒の支援のために職員間で情報共有を行い、迅速で丁寧な対応を行う。(①②)</p>	<p>・服装頭髪、遅刻指導等を継続して生徒の意識を高める。(①)</p> <p>・部活動の活性化を図り、活動を通して自己肯定感や人間力を高める指導を行う。(①)</p> <p>・教育相談会議を通して教員間の情報共有に努め、課題を抱える生徒を全体で支援する。(①②)</p>	<p>・遅刻数や服装指導対象者が今年度比で5%以上減少したか。(①)</p> <p>・部活動への生徒参加数が5%以上増加し、行事アンケートの結果、概ね満足と答えた生徒が80%を超えたか。(①)</p> <p>・生徒の課題を職員間で共有し、適切な支援を行えたか。(①②)</p>	<p>○服装頭髪、遅刻指導等を継続して生徒の意識を高めたが、遅刻数や服装指導対象者を減少させることはできなかった。(①)</p> <p>○部活動への加入生徒数は減少してしましたが、全国大会3位の成績を収めるなど、高い成果を上げた部もあった。(①)</p> <p>○行事に関するアンケートの回答数が少なく正確な統計値が得られないが、開催に対する満足度はおおむね良好な様子である。(①)</p> <p>○教育相談コア会議を毎週開くとともに、ケース会議や職員研修、いじめ防止会議を通して生徒の課題を共有し、適切に支援を進めた。(①②)</p>	<p>○特別な指導をうけた生徒や遅刻指導対象者が増加(120%増)し、生徒の規範意識や基本的な生活習慣の育成が重要となってきた。(①)</p> <p>○アルバイトに従事する生徒の増加やコロナ禍による影響からか、全体に部活への関心が低くなってきている傾向がある。(①)</p> <p>○行事アンケートの回答には、生徒より改善に向けた要望が数多く寄せられている。(①)</p> <p>○メンタルや発達への課題のほか、家庭環境が複雑化している生徒も増え、教育相談体制の強化や、職員間の情報共有による組織的な支援の重要度が増加している。(①②)</p>	<p>○生徒の雰囲気が以前と変わってきていると感じるが、その対応も変化していることが分かった。生徒に対するこれまでの固定した観念にとらわれず、様々な変化に対応した、より効果的な指導を検討して欲しい。(①②)</p> <p>○文化祭などの行事において生徒にチャンスを与える様々な取組みを見ることができた。自分たちが動いたことによる成果が見えるとやりがいが高まるので、より一層の工夫を期待する。(①)</p>	<p>○規範意識の定着を目指し粘り強く指導を行ったが、問題行動等の件数は増加した。(②)</p> <p>○部活動紹介を様々なに行ったが、生活環境の変化等で加入状況が悪く3年生引退後に休部状態の部活動が増えってしまった。(①)</p> <p>○体育祭を復活させ行事の充実を推進したが、器具が不足し他校より借り受けなければ対応できなかった(①)</p> <p>○ケース会議・研修会などで職員間の情報共有ができたが、対応すべき課題の件数は増加傾向にある。(②)</p>	<p>○生活指導に支援の視点からのアプローチを取り入れるなど効果の上がる指導体制の構築を検討する。(①)</p> <p>○生徒のニーズに応えるため、部員が少ない部などについては、他校と連携した活動による活性化について検討する。(①)</p> <p>○予算が少ないなかではあるが、行事の活性化に向け計画的に環境の整備を進める。(①)</p> <p>○引き続き職員間で連携した組織的な対応を進めるとともに、教育相談体制の充実に向けた体制の教化を検討する。(②)</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月15日実施)	総合評価(3月29日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>①進路指導・支援の充実(進路ガイダンス・インターンシップ・職業教育等の充実)</p> <p>②社会性の育成(コミュニケーション・情報発信能力の向上)</p>	<p>○生徒が「生涯にわたる自分づくり」に主体的に取り組む態度を養うとともに、社会の状況に適応した進路支援を行う。(①)</p> <p>○就業体験や高大連携事業を通じ、進路活動に対する意識やコミュニケーション能力を高めるための支援に取り組む。(①②)</p>	<p>・進路集会や個別面談などを通じて計画的な進路指導を行い、生徒が自らの目標を明確に持つことができるよう支援する。(①)</p> <p>・外部講師や地元企業によるガイダンスを実施し、個に応じた進路支援を行う(①)</p> <p>・就業体験や高大連携事業に参加させることで、早い段階から主体的に進路を考える姿勢を育む。(①②)</p>	<p>・校内組織が相互に連携することにより、進路選択のミスマッチを防ぐことができたか。(①)</p> <p>・外部講師や地元企業によるガイダンスが、実際の進路決定場面で有用であったか。(①)</p> <p>・就業体験や高大連携事業を通して、進路活動に対する意識やコミュニケーション能力を高めることができたか。(①②)</p>	<p>○進路集会や個別面談などを通じて、個々の進路希望に対応する進路指導を効果的に行うことができた。(①)</p> <p>○173名の卒業生のうち、就職内定者98名、進学先決定者70名で、97%の生徒が進路実現を果たした。(①)</p> <p>○外部講師や地元企業によるガイダンスを通じて職業教育を行うとともに、生徒の社会的向上を図った。(①②)</p> <p>○インターンシップやデュアルシステムなどの就業体験を通じて、生徒が主体的に進路を考える機会を設けた。(①②)</p>	<p>○学年ごとの進路行事について、時期や方法などを改めて精査し、進路支援の体制をより一層充実させることが課題である。(①)</p> <p>○受験制度の多様化に対応できるよう、情報収集と実態の把握に努め、生徒・保護者には早めに適切な情報提供を行う。(①)</p> <p>○高大連携授業やオープンキャンパス、インターンシップへの積極的な参加を促し、進路活動への意欲やコミュニケーション能力の向上を図る。(①②)</p>	<p>○ほとんどの生徒が希望の進路実現を果たしており、効果的に指導が行われている。(①)</p> <p>○進学については基礎学力の向上が必要だが「ただやりなさい」ではモチベーションが上がらないので、指導を工夫し対応して欲しい。(①)</p> <p>○就業体験をはじめとした効果的な指導を通して、地域産業を支える人材の育成と輩出を引き続きお願いしたい。(①②)</p>	<p>○学年団や各系と連携し、個々の進路希望に応じた適切な指導を行い、生徒の進路実現に結び付けることができた。(①)</p> <p>○多様な進路希望に対応するため、進路行事のより一層の充実を図ることが課題である。(①②)</p> <p>○就業体験や高大連携事業などを通じて、生徒が自らの進路を主体的に考え、取り組む姿勢につなげることができた。(①②)</p>	<p>○学年ごとの進路行事について、3年間の計画を明確にし、計画的に実施できるよう精査・検討する。(①)</p> <p>○基礎学力向上の重要性について、生徒が早めに意識を向けられるよう、各教科とも連携してアプローチの仕方を検討していく。(①)</p> <p>○引き続き、就業体験などへの積極的な参加を促し、生徒の進路活動意欲向上を図る。(①②)</p>
4	地域等との協働	<p>①地域連携・協働の推進(CSとしての取組みの推進・異校種間連携事業の推進)</p> <p>②開かれた学校づくりの推進(ホームページ・ポスター・各種イベントの活用)</p>	<p>○地域連携を充実させ、地域への学校理解を推進する。(①②)</p> <p>○専門高校である本校の魅力特色を、学校説明会のほかHP、SNSなどを活用して発信し、地域や中学生・保護者の本校の理解を深める。(②)</p>	<p>・地域連携の充実や外部イベントへの参加を推進し、開かれた学校を目指す。(①②)</p> <p>・学校説明会や体験会を実施し、本校の魅力や特色を理解してもらう。(②)</p> <p>・HPを効果的に活用して情報を発信し、更にSNSで情報発信の頻度を上げ、情報発信の充実を図る。(②)</p>	<p>・連携活動やイベントへの参加数、地域から連携希望が増えたか。(①②)</p> <p>・地域や中学生・保護者に対し、効果的に発信することができたか。学校説明会等の参加状況やアンケートの結果が良好であったか。(②)</p> <p>・HPやSNSの更新回数が増加し、更に閲覧数が増加したか。(②)</p>	<p>○藤沢商工会議所、むつあい協力者会議と連携し、地域の催しに参加した。連携活動が広く認知され、湘南台市民センターからの連携希望があった。(①②)</p> <p>○年3回の学校説明会を実施し、R5/731名(前年比1.07倍)の中学参加者を集めた。アンケート結果も良好であった。tvkニュースにて地域連携の取組を取り上げられ、広く本校の魅力を発信できた。(②)</p> <p>○HPの更新率も上がり、Xの更新率はR5/50ポスト(前年比1.06)と上げることができた。(②)</p>	<p>○多方面からの連携希望は有難いことだが、生徒の学びのバランスが課題である。(①②)</p> <p>○学校説明会など参加希望者は多くいるが、志願倍率が1.0を切っているため、新規の広報方法や効果的な広報計画と魅力、特色の発信が課題である。(②)</p> <p>○HPもXも充実してきているが、新規のSNSによる情報発信をする等、改善の検討が必要である。(②)</p>	<p>○地域との連携や学校の特色発信が進んでいるが、中学校や保護者の固定したイメージを払拭できていない現状もある。(①②)</p> <p>○新しいことを始めることは大変なので、既存の取組みに新しい視点を加え、効果的に再構築することを検討してみたい。(①②)</p> <p>○生徒の感想をもっと聞きたかった。生徒がどのように受け止めているか外から見てすぐに分かるようにすると良い。(②)</p>	<p>○学校の特徴や雰囲気を理解してもらうために地域との連携活動は効果があるが、イベントは週末が多く生徒や職員の負担も大きい。(①②)</p> <p>○学校説明会など参加希望者は多いが志願倍率が1.0を切っている。(②)</p> <p>○SNSを活用した情報発信について体制の整備が進んできているが、より効果を上げるための検討が必要。(②)</p>	<p>○生徒の参加機会確保や職員の休日出勤の集中を避けるため、地域との連携活動の担当に関する調整を計画的に行う(①②)</p> <p>○これまでの固定したイメージを払拭するための広報戦略について検討を行う。(②)</p> <p>○アンケートの結果や他校の運用状況なども参考とし、中学生や保護者のアクセスを向上させるための方策を検討する。(②)</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①信頼と期待に応える学校づくりの推進(学校運営の組織的な改善・不祥事防止研修)</p> <p>②安心して快適な教育環境の整備(教員の働き方改革の推進・施設設備の充実)</p> <p>③防災教育の推進(DIG・防災訓練による災害対応力の向上)</p>	<p>○職員一人ひとりが自覚を持って事故不祥事防止に努める。(①)</p> <p>○ICT利活用授業推進事業をベースに教育環境の整備、充実を図り、安全で安心な学習環境を作る。(②)</p> <p>○PTAや地域と連携した防災計画を再確認し、ともに協力しながら、生徒や職員全体の防災意識を高める(③)</p>	<p>・不祥事防止研修や教育活動推進PT会議を活性化し、職員自らが課題意識を持って職場全体で取り組む。(①)</p> <p>・各教科の授業でClassroomを有効に活用するため、校内研修の充実を図る。(②)</p> <p>・PTAや地域と連携し、防災訓練やDIG訓練を実施し、生徒が主体的に行動できるように効果的な防災教育の実施に努める(③)</p>	<p>・事故不祥事防止を徹底し、全体で解決に向けた取組を実践することができたか。(①)</p> <p>・教育環境の整備を推進し、生徒が学びやすい、職員が働きやすいと感じることができたか。(②)</p> <p>・地域防災という視点から、被災時に備えた実践的な対応について、生徒も職員も意識を共有し、災害対応力の向上が図れたか。(③)</p>	<p>○毎月の不祥事防止研修のほか、様々な呼びかけなどにより職員の高い意識を維持することができ、本校における不祥事の発生は無かった。(①)</p> <p>○個人端末の所有学年が増え、ICT利活用授業が促進される環境になった。通信環境において、他校のリースアップしたアクセスポイントを再リースしたので、各クラスに設置できた。(②)</p> <p>○防災訓練及びDIG訓練を実施することで、防災意識を高める取り組みができた。(③)</p>	<p>○不祥事が発生している学校が多数あり、全県で対策の検討が進められている。(①)</p> <p>○本年度はアクセスポイント数の不足から通信環境が十分でない教室が多く、ICTを利活用した授業の展開に支障が出る場面があったが、アクセスポイントを増設し、より安定した通信環境の整備を進める。(②)</p> <p>○地域と連携した取り組みについては実施できていないため、今後具体的に検討を進める必要がある。(③)</p>	<p>○不祥事の発生は無かったが、防止に向けた対策は継続する必要がある。(①)</p> <p>○一人一台端末の導入によりICTの利活用が進んでいることが分かった。これまでの取組みを振り返って成果を検証し、より効果的な運用を推進して欲しい。(②)</p> <p>○大きな地震災害も発生しているが、対策はしっかりとしておかなくてはならない。(③)</p>	<p>○不祥事防止に向けた継続的な取組みにより、職員の高い意識を維持することができた。(①)</p> <p>○個人端末を活用した授業が増えたが、授業がパターン化することで効果が薄れる危惧もあるので、様々な工夫した展開を検討する必要がある。(②)</p> <p>○DIG訓練を実施することにより、生徒の防災意識を高める働きかけをすることができた。(③)</p>	<p>○職員の高い意識の維持を継続させるため、不祥事防止研修などを通して引き続き働きかけを行う。(①)</p> <p>○ソフトウェアのアップデート情報の共有、授業展開の方法の共有が行える研修会又は資料作りをしていく必要がある。(②)</p> <p>○PTAや地域と連携した防災計画を立てるにはどのような実践例も参考に検討する。(③)</p>

